

# 桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 38 号

発行日 2017.5.27

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



▲春の屋外行事「麒麟ビール横浜工場見学と昼食会」での集合写真

いきいきライフ：商研 OB ゴルフ会の活動

いきいきライフ：ことばあそび

いきいきライフ：今日行く所がある生活を

エッセイ：錆びついた読解力

エッセイ：健康寿命で限りを目指す

関連会社からの情報：これからの医療・介護、知って備える

春の行事報告：麒麟ビール横浜工場見学と昼食会

事務局だより・編集後記

石塚幹夫

山崎起助

大須賀通孝

藤本孝信

丸屋 完

MD ライフ 湘南支社 國原 典子

富山勝己

事務局

商研 OB ゴルフ会は 1959 年 12 月に創設された商品研究所（現・住環境研究開発センター）の所員の定年後の懇親と健康維持を目的に 2005 年に発足した。OB のゴルフ好きが多数会員として所属する御殿場・富士平原 GC をメインコースとしてラウンドすることで始まった。

発足以降、春・秋の年 2 回コンペを実施して現在まで 24 回実施したが、今春には 25 回目の開催を予定している。コースは霊峰富士の東南東に位置した海拔 700m のリゾート地にあり、富士山に見守られてのラウンドが魅力的である。

プレーする環境は好天の日ばかりではないので、開催案内には雨天決行と記載して運営しているが、ゴルフ場に到着したら豪雨のため、そのまま現地解散ということもあった。またある時はラウンド中、にわかには天候が乱れ豪雨・強風・雷の三重苦の中でのプレーとなったが、高地での雷鳴はすさまじく、騒然とする中、結局プレーはゴルフ場の中止ホーンで断念することになったが、これで緊張からも解放され、変に安堵もした。コンペはハーフラウンドで全員が無事終了し長谷川さんが優勝した。

HDCP は新ペリアで 3 ラウンドの平均値で決めてプレーしているが、優勝、2 位、3 位の入賞者は自動的に HDCP を下げてなるべく順番に入賞の喜びを分かち合えるようにしている。

会を運営するうえで考慮している点はエンジョイゲームとしてドラコン、ニアピン、大波、小波の他に「ドラタン」を設けていること。これは定年ほやほやの新人と熟年会員ではパワーの差が大きくドライバースョットの飛距離が 30 ヤード以上も離されてしまうので飛距離の短いメンバーでも楽しめるように設けたものです。

また、エンジョイ賞は上手な人に独占されやすいので前半でエンジョイ賞をゲットした人は後半の権利はなしとして皆が楽しめるように賞を分配している。

さらに安全第一でプレーするため危険個所からのプレーは自己判断で宣言してボールの移動は OK とし、打球方向は全員で確認するように心掛けている。

年間 2 回のコンペに参加するため日頃からの練習はもちろん、メンバーの中にはウォーキングや家庭

菜園の趣味の人も多くいて、それらが健康維持の秘訣になっているようだ。

10 周年記念大会はリゾートホテルに宿泊して一泊二日の 2 ラウンドで実施したがプレーもさることながら酒と美味しい食事で懇親会は大いに盛り上がった。

特にこの時は Peace Boat で 80 日間世界一周の船旅をした大槻さんのビデオ報告会を楽しんだ。横浜・山下公園の大栈橋から出航するのを筆者は見送りに行き、船内の見学を希望したが、船内は国外扱いのため残念ながら乗船はできなかった。

その代り船首から船尾まで十分にカメラに収めることができた。マラッカ海峡、スエズ運河、ジブラルタル海峡、パナマ運河を経由した旅行報告が紙面の関係で紹介できないのが残念だが、旅行記は商研 OB ゴルフ会 10 周年記念誌を発行してその中に記載している。

OB ゴルフ会は 5 人の常任幹事で運営している。優勝して幹事になると次回開催が負担になるのを避けるため、5 人の幹事を 1 組から 5 組まで分散配置してスムーズにラウンドができるようにし、スコアカードの提出は幹事が行うようにしている。



幹事（他に山下雅子さん）の方々と（左端が筆者）

プレー終了後は、懇親会を実施しているが司会は紅一点の山下（雅）さんをお願いしている。表彰式と全員のスピーチ（近況報告）を行い、その後に参加者全員の名前を織り込んだ短歌、川柳が山崎さんから披露されるが、毎回機知とユーモアに溢れた作品紹介がお楽しみになっている。

最後に次回開催予定日を決め、再会を楽しみに散会です。



日本語のもつリズムとして、五七五の言調、五言や七言の区切りをもつリズムは面白いものだと思いますようになってきました。五七五は俳句や川柳、それに七言リズムを加えた五七五七七は短歌、和歌として親しまれています。また、七言、五言は調子よく音に乗り易いので多くの歌の歌詞に使われています。こんな思いでボケ防止や退屈しのぎにと“ことばあそび”を楽しんでいます。私の趣味は、囲碁、ゴルフ、ドライブなどですが、これに関連して“ことばあそび”の一端を書いてみました。



◇**囲碁関連**：上達に資する格言や人の名前（△印）を織り込んだ短歌・川柳

- ・大場打ち 急場打たずに 涙飲む
  - ・碁の勝負 好手打つより 悪手打つ
  - ・碁のゲーム 一手一手の 交互打ち 生きるも死ぬも 一手の違い
  - ・いい手とは 連続技が 決まるとき 悪手は一手で 勝負が決まる
  - ・“たれば”は ゴルフも囲碁も 同じこと これがあるから やめられません
  - ・碁仲間は 舌悪・三味線 自由です でも気をつけて 待たはなしです
  - ・碁の最中 ぼやきぼやかれ 口の方 達者でなめらか 碁と大違い
- △石を持ち 気遣いもせず 盤におき 後悔すれど 後の祭りさ
- △今回も 大場打たずに 急場打つ 歳はとつても 進歩がうれし
- △苦悶して ボーとする間に 地所取られ 負け

碁のパターンに はまるを嘆く  
 △やがて知る まともな手段 踏めば好し 残念ながら 気付くが遅し  
 △よしこの手 自信をもって 叩きつけ 相も変わらず 独り読みです

◇**ゴルフ関連**：自分のゴルフを振り返りつつ反省と上達をこめてと囲碁と同様に人の名前（隠れている）を織り込んだ短歌。

- ・打つ前は こうするものと 思えども 瞬時に忘れる アマチュアゴルファ
  - ・スイングは こうするものと 思えども 体は別もの 勝手に動く
  - ・ゴルフとは 心理ゲームと いう如く 気持乱れて スコア一乱れ
  - ・“たれば”は あとの祭りと いうことよ 祭りがあるから 楽しさ続く
- △時を経て ゴルフの会も 高齢化 シニアティナーから 打つ人多し
- △いついつも 心静かに 楽しめる そんなゴルフが できないものか
- △錯乱し いつものきれが 影潜め 気分も優れず 大たたきした
- △狭きとこ 危険を冒す 無理をして わざわざ コースの 罠に陥る
- △ゴルフなど 止したが良いと 思いしが 代わりは何か 思い煩う

◇**自動車ナンバーの読み替え**：運転しながら、ナンバーを見て適当な言葉に置き換えていると、眠気も生じず、頭の体操にもなるなどと楽しんでいきます。以下はつぶやきの一例です。

- ・5160：恋は空しい
- ・6556：老後はごろ寝で過ごします
- ・6545：老後は仕事で頑張ります
- ・5145：恋は仕事の一つです
- ・2296：夫婦で苦勞して家を建てました
- ・5963：運転ご苦勞さんでした
- ・4879：ようやくローンが無くなりました

◇**結びに**、ことばあそびをしながら、後期高齢を楽しんでいます。

### 入社から現在まで

私は、2004（平成16）年3月に知的財産センターを定年退職しました。退職時、本社人事の担当者から退職者親睦会への入会はどうしますかと聞かれましたが、大船の桜船会と答え、入会手続きをとりました。定年後、特許事務所に転籍し社員から顧問へと変わりましたが、今でも健康維持のため、週3日位のペースで、東銀座の事務所まで往復4時間をかけて通勤しています。

身体が続く限り、仕事を継続できれば良いなと思っています。

入社から定年退職まで特許一筋に仕事を続けることができました。入社当初は特許の仕事に馴染めず苦労しましたが、今ではよくぞ特許部に配属してくれたと会社に感謝しています。その間、日本知的財産協会（旧日本特許協会）の専門委員会の委員長、副委員長等を12年、同協会主催の研修会の講師を8年務めさせていただきました。

退職前は、定年後はどうするのかと一抹の不安を感じていましたが、実際に定年を迎えると、不思議に先輩や仲間達との人脈による良き縁に恵まれ、各方面から仕事や遊びについて、色々と声を掛けていただきました。

### 退職後の仕事と交遊関係について

特許事務所に転籍後は、某特許情報サービス会社から知財セミナー講師を依頼されて10年、某中小企業から非常勤特許顧問を依頼されて9年、東北の某市役所からIT（知財）相談員を依頼されて11年、いずれも仕事を継続させていただいています。

特許事務所の顧問、某企業の非常勤特許顧問、知財セミナー講師、某市役所の相談員を務めていると、「今日行く所がある」ので、往復4時間の通勤にも張り合いがあります。通勤時間4時間のうち、約1時間は、乗物を利用せず、1日1万歩以上を目標に歩いています。足と頭を積極的に働かせるようにしています。

仕事以外では、実の兄弟3人による年数回の2泊3日～4泊5日の旅行を15年以上続けています。何の気兼ねもなく、最も楽しくかつ心身が癒される時

間です。学生時代の仲間達とは50年以上の付き合いで、1泊2日の旅行又は日帰りの飲み会を年数回続けています。特許部の仲間達とも古い付き合いで月1回又は2ヶ月1回の飲み会を続けています。

商研同期の仲間達とも年数回の旅行又は飲み会を続けています。桜船会行事への参加と併せ、仕事以外でも外出する生活をできるだけ楽しんでいます。

社外の仲間として、日本知的財産協会の長老の集まりである重陽会に入っており、月1回の定期会合には必ず出席しています。会員の中には、ご高齢にも拘らず、未だ現役で特許の仕事をしている方が多くいらっしゃいますので、励みになります。その他にも、30年以上の付き合いである知的財産協会の海外意匠調査団OB会（通称G5）の会合（年1回）、20年以上の付き合いである知的財産協会の知財管理委員会OB会の会合（年数回）に必ず参加しています。



通称G5の定期会合にて（左端が筆者）

### 今後の目標

以上のように、仕事と、兄弟、学生時代の仲間、会社時代の先輩や仲間達、知財関係の先輩や仲間達との旅行や飲み会などの会合を通して得られた仲間達が、人脈を更に広げることになり、「今日行く所がある生活」を拡大しているように思われます。したがって、そのような会合には積極的に顔を出すように心掛けたいと思っています。それが「いきいきライフ」に繋がるのかな、と思っています。

新聞（2016.12.24 読売）によれば、経済協力開発機構は15歳の学力を測る国際学習到達度調査を3年に1度実施しているそうです。今回の調査では、日本は理数系の分野では順位を上げたが、文章を読み取ったり、自分の考えを書いたりする「読解力」は下がっていたそうです。

ご機嫌いかがですか。

上の調査では、72の国・地域で、合わせて約54万人がテストを受けたそうです。



筆者近影

もしも、75歳の「読解力」を測る調査があったとしたら「日本は何位ぐらいかな～」と、どうしてもいいことを思いながら、ソファーに寝転んで



アニメーション映画「君の名は」の小説版を読みました。と言っても、3頁ほど読み進むと眠り込み文庫本一冊読むのに2週間というありさまでした。

昔のことですが、生活に希望が出てきたのか百科事典とか世界文学全集などのかさばる書籍が家庭に入り込んできた高度成長時代がありました。職場にも「書棚の飾り」で普通は読まないと思えるハードケースの世界文学全集の一冊をいつも抱え「全集を読破する」と言っていた先輩がいました。

彼は読み進めている小説の作家やあらすじだけでなく、若かった僕に人生のあれこれを教えてくれました。「親切の押し売りか？」とメンドクサイこと

に思えたこともありました。今思えば、ロシア文学を代表するトルストイやドストエフスキーの小説の登場人物名を「スラスラ・・・」とでしたから「理解し、よく覚え」で、本物の読書家だったのだと思います。

しかしながら、いつの世も「ありがたい話」は若者には通じないもので、その後も私には読書の経験といえるほどのことはありません。文学とか小説となるとカラッキシで「飢えた子供のまえで文学は可能か」とか「なぜ書くのか」という問いに「僕は僕の生きている時代や社会に、ほんの少しでも影響を与えたいからだ」などと文学が片意地張っていた時代に見栄を張って読んだつもりになった程度です。

新海誠著「君の名は」は、東京に住む少年が地方に住む少女と入れ替わるという話です。少年は、夢かうつつか奇妙な経験が忘れられません。「経験とはものごとを考える尺度」のことですが「考える」を超えて「逢えるはず」だと信じます。信じるのは彼女も同じです。二人の願いは「逢いたい一緒にいたい」となります。「やっと逢えた」と、ついにその喜びの時が来ます。泣きながら笑い、笑いながら泣く二人は「君の名は」と声をそろえます。

「あとすこしだけでも一緒にいたかった」という文章を指で追いかけて読み、願いが叶えられますようにと「オッサンの私」も祈ります。このファンタジーは最後の6頁でできています。

読解力は錆びついていて理解できたとはいいいがたいですが、読者は失った大切なものや、失ってから知る大切なものを思い、探すというところでしょうか。

昭和の時代にも「君の名は」という優れたラジオドラマがありました。冒頭に「忘却とは、忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う心の悲しさよ」という有名な「語り」があります。

上方漫才の鳳啓介・京唄子は、この「語り」から「忘却とは忘れようとして思い出せない・・・」という漫才史に残る名作をつくりました。

「君の名は」には、同名の作品が三つあります。私の最も好きな作品はもちろん「漫才」です。

それではまたいつか、ごきげんよう。



旧り行く<sup>よわい</sup> 齢。喜寿に到達し、日々の生活の中で、気力・体力の衰えを痛切に感じながらも、せめて体力だけでも衰えの速度を遅延すべく、日々の生活サイクルに運動を取り入れ、究極的理想のピンピンコロリの限りを目指し、鋭意奮闘努力していますが、その結果は神のみぞ知るで、神様・仏様にお任せせざるを得ないのが現実です。

また、若き日は見目麗しく・優しく・温和しかった山の神様は、何故か子供達が自立した頃から豹変し、鋭い機関銃のような言葉の攻撃・嫌味・上げ足取り・邪推・等々の集中攻撃に、必死の防戦態勢にて対応するも、いとも簡単に、木端微塵に粉碎され、日々の虐め・迫害の攻撃に晒されて、神経を研ぎ澄ましていなければ、いつ何時寝首を搔かれるか分からない状況。容易くボケてなどいられないという、気の抜けない真只中にある。

このように、毎日の生活は、日頃の精神的鍛錬にて耐え忍び続けていることが、老化防止に役立っているのかもしれませんが。

ボケ防止に備え、中年の **45 歳頃**からリコーダー（縦笛）演奏に勤しんでいます。

リコーダー演奏の効能は、指揮者のタクトの動きや楽譜の音符を読み取る目・読み取った音符を反映させる指の動き・他の演奏者の音程・強弱・リズム・ハーモニーを聴き取る耳・横隔膜を使用し吸い込んだ息を、適量に吹き出す呼吸法等、複雑な複合動作をしていて、正常な脳の活躍がないと動きがとれないことが分かります。ズバリ、脳へのボケ防止のための刺激が大で、己の脳の働き状況が自覚症状として確認できます。

体力維持のため、**50 歳**からピンポン（上達せず、未だ卓球と云えぬレベル）を始め、現在も、会社の体育館で週 1 回 2~3 時間の打ち合いを、かれこれ 20 年程続けている。

ピンポンの効能は、玉を良く見る必要があり無意識な目玉の運動。ラケットを振る上半身の捻り運動。玉を追う足の運動。玉拾いの際の腰・膝の屈伸運動。玉を受け打ち返す反射神経の衰え防止等。多少の疲れが出るも、私には、肥満減量効果も抜群で、皆さんも是非試されてはと推奨します。但し欠点は、受

け身の体勢が中腰の構えのためか、私には、背筋の疲労度が、半端ではない程高い。

体力増強の目的で、**40 歳**から地元ソフトボールクラブチームへ加入し現在に至る。

平均年齢の上昇に伴い、体力が落ち、動きが悪いにも関わらず、反して皆の口の動きだけは一段と磨きがかかり、減らず口が飛び交う、今や平均年齢 72 歳のハイシニアチームとなる。

同様に私の体力も格段に低下して、往年は打球飛距離が、楽に 80M 程度飛ばせたが、今や 60M 程度に減少。投球も 30M が届く範囲。走りの方は未だ足は纏れないが、ベース塁間を 1 周するのが限界。

さらに 65 歳で、運動不足解消にと、他のソフトボールのシニアチームに新規に所属した。また 69 歳の時、請われて、自分の娘程の若い女子チームの後方で球拾いの手伝いと、現在 3 股かけて週 4 日程ソフトボールに関わる日々を過ごしている。

ソフトボールの効能は、団体球技であり、チームプレイの楽しみがあり、拙守・拙攻への野次でのストレス発散・守備や走塁のダッシュの繰り返しによる足腰の鍛錬・折々の懇親会での交流等、心技体の広範囲にわたり、絶大なる効果あり。



開開岳にて  
(筆者)

亭主元気で留守がいい。出掛けると喜ぶ山の神の顔を見たさに、いそいそと、毎日家から出かけて、老骨に鞭打って、体力の衰えを防ぐ手立てを講じての日々を過ごしている。先輩諸氏に対し、釈迦に説法の感がありますが、私の持論＝人間の体は機械と違い、手入れしても寿命あり、酷使すれば故障する。己の体の限界を知り、体の動かせる健康寿命を維持し、ピンピンコロリの限りを目指し、これからも、日々精進して往きたい。

2025年、団塊世代2,179万人が後期高齢者と言われる75歳以上に突入し、2055年には2,401万人と全人口の26.1%に達します(高齢化率は40%弱)。日本はかつて経験した事のない人口減少(2065年総人口予想8,136万人)・超高齢化に直面する社会となりますが、社会保障費は2012年109.5兆円、2025年148.9兆円と1.4倍に増加、GDP成長率を上回る速度で拡大し続けます。社会保障費の中では、年金・医療・介護が大幅に増加、世代間格差・給付の不公平が拡大する状況で、今後数年間が医療・介護の給付抑止政策が集中する最後の段階となります。今回は身近な医療・介護関連の変更についてご紹介致します。

## 1. 医療関連制度、どう変わる？

- ① 病院毎に担う機能が見直される：日本では急性期病院を標榜する病院が多すぎ高額な医療保険費が消費されている一方で、リハビリ等が効果的に行われていない、という分析結果があります。今後は、各病院がどのような機能を担うのか、を「地域医療構想調整会議」の話し合いで決定していく事になります。
- ② 退院が促進される：急性期から慢性期へ、病院から在宅医療・地域への流れをスムーズにしていく事で、早期の在宅復帰が促進されます。現に、急性期病院からの退院はどんどん早くなり、7日～14日程度では退院や転院となっています。入院後早い段階で退院準備(自宅での療養や介護が可能か、どこか施設を探すのか等)を判断する必要があり、常日頃の情報収集が重要になります。
- ③ 薬剤管理が変わる：基本的にはジェネリック薬品の使用が更に推奨され、また飲み残し薬品を減らすために薬剤師が利用者の薬品在庫等を一緒に管理する「かかりつけ薬局制度」も導入されました。

## 2. 介護関連制度、どう変わる？

- ① 介護が必要になっても地域で暮らし続ける：医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」が推進されます。介護＝施設入居では無く、自宅や高齢者住宅等、様々な選択肢の中で地域

サービスを活用しながら暮らし続けるように様々な仕組みが変わりつつあります。

- ② 介護給付は中重度者中心に変わっていく：基本的には、要介護3～5の中重度者や認知症者に給付の焦点化を図る事が目的です。軽介護者は、予防に力を入れる、保険給付に頼らない「自費サービス＝保険外の生活支援サービス」を活用する、等サービスの利用方法が大きく変わっていきます。限られた財源を効率的・有効に活用する焦点化は益々進展します。
- ③ 早い時期、元気なうちの移り住みが促進される：現在、サービス付き高齢者向け住宅等の整備が進んでいます。自宅への閉籠りや外部との交流の遮断は、生活機能の維持に大きく影響する要素です。介護が必要になる前に、生活環境の整った「住い」に転居する事で安心・安全と生活の活動性を高め、より健康寿命を長らえる事が狙いです。

## 3. 私達の生活の仕方、どう変わる？

「長生きリスク」という言葉がよく聞かれるようになりましたが、90歳代の高齢者は既に稀では無く、65歳で高齢者と呼ぶ事にも抵抗が生じる位、日本人は長命化しています。一方で、生産年齢人口は大幅に減少しており、当然これからの私達の生き方や老年期の迎え方は大きく様変わりしていく事が予想されます。65歳からは第2の労働人生に従事し、75歳からはボランティアとして社会に貢献し、85歳以降ほんの少しの介護を受けて暮らす…つまり労働年齢人口は75歳まで、と社会構造の転換を促す省庁もあります。自分らしく生き続ける為に、そして自立と尊厳、自由を謳歌しながら暮らす為に、今の暮らし方を見直してみる事も大事な事ではないでしょうか。

## 4. 最後に

MDライフは、鎌倉市内で訪問介護やデイサービス等の在宅支援事業とサービス付き高齢者向け住宅、認知症専門のデイサービスやグループホームを運営しております。市内・近隣在住でご利用をお考えの際は下記にご相談頂ければと思います。

- ・サービス付き高齢者向け住宅レベーン湘南：0467-48-0152
- ・湘南笛田グループホーム：0467-38-1718
- ・鎌倉ケアハートガーデン(在宅部門)：0467-42-6731

- 1) 行 先：キリンビール横浜工場見学と昼食会
- 2) 実施日：平成 29 年 3 月 28 日(火)
- 3) コース：JR 新子安駅 9：50 集合～(歩 20 分/1.2 km)～「キリンビール横浜工場」(10：30～12：00 見学・試飲)～レストラン「ピアポート」(12：10～13：30 昼食会&ビンゴゲーム)～解散
- 4) 参加者：41 名 (内ご家族 4 名)
- 5) 天 候：前日の雨も上がり陽春の快晴

2016 年 10 月 1 日に工場見学ツアーがリニューアルオープンした「キリンビール横浜工場」の最寄り駅は、徒歩 10 分弱(0.6 km)の京急・生麦駅ですが、下見の結果 40-50 名が集まれる場所がないため、少し遠くなるが広場のある JR 新子安駅改札出口を集合場所としました。国道 15 号を東にゆっくりと 1 km 程歩き目的地の「キリンビール横浜工場」に着きました。



▲キリンビール横浜工場の貯蔵・ろ過塔

エントランスで小休憩の後、「一番搾りうまさの秘密体感ツアー」をガイドさんにご案内いただき、実際の設備や最新映像を使ってビール製造工程(原料、仕込み、発酵・貯蔵、ろ過、パッケージング)見学と、一番搾り麦汁と二番絞り麦汁の飲み比べや、麦芽の試食、ホップの香りを体験できました。

約 1 時間の見学後に試飲タイムとなり、市販品とは一味異なる出来立ての「一番搾り」や「スタウト」等を美味しく頂きました。

緑豊かな庭園に囲まれた隣にあるレストラン「ピアポート」に移り、予約した人気メニューの一つである「昼のお弁当」を皆で食べた後、キリンラベル入り T シャツ、小岩井農場・乳製品、一番搾り缶ビールが当たるビンゴゲームを楽しみました。

「春の行事」は、桜船会・会員の親睦を深める目的で毎年 3 月位に近隣の見どころの見学や公園等の散策を実施してきています。ここ数年の実施状況は下表の通りで、11 月頃から役員会で行き先の検討と下見等も行い実施日等を決め 1 ヶ月以上前の役員会後に開催案内を全会員に送付しています。

今年は、JAXA(宇宙航空研究開発機構)・相模原キャンパスでロケットや人工衛星の見学も検討しましたが、適当な会食場所が見つからず断念しました。会員の皆様で行ってみたい場所や要望等がありましたら、役員までお知らせ願います。

実施年	月/日	行 き 先	参加者
2016	3/28(月)	根岸駅から三溪園散策	38
2015	3/26(木)	桜木町駅～横浜港クルーズ	59
2014	3/25(火)	大船玉縄城址と楽友会館	43
2013	2/28(木)	湯河原幕山公園の観梅	36
2012	3/09(金)	横須賀軍港めぐり	64
2011	2/03(木)	二宮・吾妻山の菜の花	54
2010	3/26(金)	北鎌駅から鎌倉中央公園	51

## 事務局

## 会員動向 (H28.9.23～H29.4.17)

## ■会員動向 (敬称略)

- ・会員数：254 名
- ・入会者：1 名 (H28 年 9 月 23 日～H29 年 4 月 17 日)  
高井 伸之
- ・物故会員：2 名  
本田 健郎 矢地 富士雄  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ■編集後記

例年気温が 20℃前後の時期に色々な野菜の種を蒔き、今頃は畑に苗の植え付けを行うのに忙しい時期だが、今年は気温が思ったように上がらず、作業が遅れている。露地栽培の野菜作りは自然相手のためデリケートで難しく、毎年、天候に合わせた発芽や成長のための環境作りと微調整が必要となる。

編集責任者：桜井貫智

編集委員：馬場景一 沼田孝治

印刷所：(株)さんこうどう